

平成 年 月 日

平成 17 年度 教育研究業績書

氏名 高橋春成

最終学歴	1981年広島大学大学院文学研究科博士課程後期地理学単位修得満期退学
取得学位	博士（文学）
所属学会	日本地理学会、人文地理学会、地理科学学会（評議員）、ヒトと動物の関係学会（評議員）、野生生物保護学会（編集委員）、環境教育学会、広島史学会（評議員）
現在の専門分野	地理学（生物地理学、文化地理学）
研究課題	野生動物と地域社会の共生に関する地理学的研究、外来種問題の地理学的研究
【研究上の特記事項】 平成15～18年度農林水産省（国補事業）「イノシシの生態解明と農作物被害防止技術の開発」受託研究。平成17～18年度（財）日本自然保護協会助成「住民参加型のシシ垣遺構と現代的意義を考える」研究代表者。	
【教育上の特記事項】 「鳥獣による農林業被害と防除」をテーマに、奈良県や滋賀県を中心に、地域社会と連携して検討を行なっているが、これにはゼミ生や関連の講義を受講している学生たちが参加しており、大学と地域の協同によって教育的・社会的な成果を得ている。	
【社会的活動】 地理科学学会（評議員）、ヒトと動物の関係学会（評議員）、広島史学研究会（評議員）、野生生物保護学会（編集委員）、人文地理学会（公開セミナー企画委員会委員）、滋賀県環境審議会委員（自然環境部会長）、滋賀県移入種問題検討委員会委員（哺乳類部会長）、滋賀県生きもの総合調査専門委員、奈良県自然環境保全審議会委員（鳥獣部会長職務代理）、守山市誌編さん委員会委員（副会長）、市民講座2回（大和郡山市、守山市）、国・県・市などの主催の野生動物との共存関係シンポジウムでの講演5回（農林水産省2回、和歌山県、滋賀県伊吹町、滋賀県立大学）	
【学内活動】（学内職歴を含む） 地理学科主任、全学入試委員会委員、体育会ハンドボール部顧問、文化会写真部顧問、アドベンチャーサークル顧問	

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
1 共生をめざした鳥獣害対策	共著	2005年9月	全国農業会議所	産・官・学連携で、共生をテーマとした鳥獣害対策の提言と具体例を示した啓発書を作り、第1章の人と生き物の関わりの展望部分を執筆した。1-10p
2 日本の地誌 日本総論 (自然編)	共著	2005年11月	朝倉書店	新たな日本の地誌シリーズの第1巻である日本総論の自然編において、野生動物と日本人の歴史的並びに地域的な関わりについて、代表的な事例を述べた。75-79p
4				
5				
(学術論文)				
1人間と野生動物との共存問題－伝統的動物観から生物多様性まで－	単著	2005年4月	農林水産技術ジャーナル	人間と野生動物との共存について、伝統的な動物観と現代のキーワードである生物多様性をいかに組み合わせるかに着目し論述した。5-9p
2				
3				
4				
(学会発表)				
1 オーストラリアの野生化した家畜たち	単	2005年7月	滋賀自然環境研究会30周年記念公開講演会	オーストラリアの野生化家畜を文化史的にとらえ、現代の外来種問題への提言を行なった。
2 シンポジウム「里山の生きものの不思議」イノシシの不思議	単	2005年10月	日本昆虫学会・琵琶湖博物館共催	里山や里地が荒廃することによるイノシシの害獣化に注目し、里山・里地保全の重要性を指摘した。
3				
(その他)				
1 イノシシの生態解明と農作物被害防止技術の開発(農林水産省の国補事業の受託研究)	共著	2006年3月	農林水産技術会議事務局	GPSテレメトリー技術を導入することによるイノシシの生態解明と農業被害防止のシステムづくりについて調査・研究を行なった。
2				
3				
4				